Oriental Land Co.,Ltd.

2013年3月期 決算説明資料

2013年4月26日
株式会社オリエンタルランド

Oriental Land Co.,Ltd.

Ⅰ. 2013年3月期 決算概要

1. 当期実績(前期比較)

当期	2012/3 実績 (億円)	2013/3 実績 (億円)	増減 (億円)	増減率
売上高	3,600	3,955	354	9.9%
テーマパーク事業	2,978	3,298	319	10.7%
ホテル事業	422	489	67	15.9%
その他の事業	199	167	△ 31	△ 15.9%
営業利益	669	814	145	21.7%
テーマパーク事業	564	684	120	21.4%
ホテル事業	95	120	24	25.8%
その他の事業	7	6	△ 1	△ 17.3%
経常利益	662	808	146	22.1%
特別損失	109	ー	△109	ー
当期純利益	321	514	193	60.3%

売上高・各利益ともに過去最高

1. 当期実績(前期比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業①	2012/3 実績	2013/3 実績	増減	増減率
売上高	2,978億円	3,298億円	319億円	10.7%
入園者数	2,535万人	2,750万人	215万人	8.5%
ゲスト1人当たり売上高	10,336円	10,601円	265円	2.6%
チケット収入	4,335円	4,483円	148円	3.4%
商品販売収入	3,796円	3,860円	64円	1.7%
飲食販売収入	2,205円	2,259円	54円	2.4%

入園者数の増

・各四半期ともに好調な集客となったことにより過去最高
　ー両パークのスペシャルイベントや新規アトラクションの好調
　ー夏休み期間や第4四半期の好天

ゲスト1人当たり売上高の増

・各収入が増加したことにより過去最高
　ー チケット収入の増(前期実施したチケット価格改定に伴う増)
　ー 商品販売収入の増(スペシャルイベントや「トイ・ストーリー・マニア！」関連商品の好調)
　ー 飲食販売収入の増(ワンハンドメニューの好調)

過去最高の売上高

1. 当期実績(前期比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業②	2012/3 実績	2013/3 実績	増減	増減率
売上高	2,978億円	3,298億円	319億円	10.7%
営業利益	564億円	684億円	120億円	21.4%

営業利益の増

- 売上高の増
- 商品原価率・飲食原価率の増　△14億円
- 人件費の増　△53億円
  ー準社員労働時間など
- 固定経費・諸経費の増 △60億円
  ー施設更新関連費・販促費・ショー製作費など
- 減価償却費の減　＋32億円

通常営業に戻ったことなどによる
(前期は震災の影響)

コストが増加したものの、売上高の増加により増益

1. 当期実績(前期比較) - 主な増減要因

ホテル事業	2012/3 実績	2013/3 実績	増減	増減率
売上高	422億円	489億円	67億円	15.9%
営業利益	95億円	120億円	24億円	25.8%

- テーマパーク入園者数の増加などによる客室稼働率の増
- 人件費、固定経費・諸経費の増　△17億円
  ー通常営業に戻ったことやディズニーアンバサダーホテルの施設改修など

売上高の増加により増益

その他の事業	2012/3 実績	2013/3 実績	増減	増減率
売上高	199億円	167億円	△ 31億円	△ 15.9%
営業利益	7億円	6億円	△ 1億円	△ 17.3%

営業利益は前期レベル

2. 当期実績(10月予想比較)

当期	2013/3 10月予想 (億円)	2013/3 実績 (億円)	増減 (億円)	増減率
売上高	3,854	3,955	101	2.6%
テーマパーク事業	3,208	3,298	89	2.8%
ホテル事業	482	489	7	1.5%
その他の事業	163	167	4	2.9%
営業利益	756	814	57	7.6%
テーマパーク事業	640	684	44	7.0%
ホテル事業	114	120	5	4.8%
その他の事業	0	6	5	910.7%
経常利益	750	808	58	7.7%
当期純利益	483	514	31	6.5%

テーマパーク事業を中心に増収増益

2. 当期実績(10月予想比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業	2013/3 10月予想	2013/3 実績	増減	増減率
売上高	3,208億円	3,298億円	89億円	2.8%
入園者数	2,710万人	2,750万人	40万人	1.5%
ゲスト1人当たり売上高	10,420円	10,601円	181円	1.7%
チケット収入	4,470円	4,483円	13円	0.3%
商品販売収入	3,740円	3,860円	120円	3.2%
飲食販売収入	2,210円	2,259円	49円	2.2%
営業利益	640億円	684億円	44億円	7.0%

営業利益の増

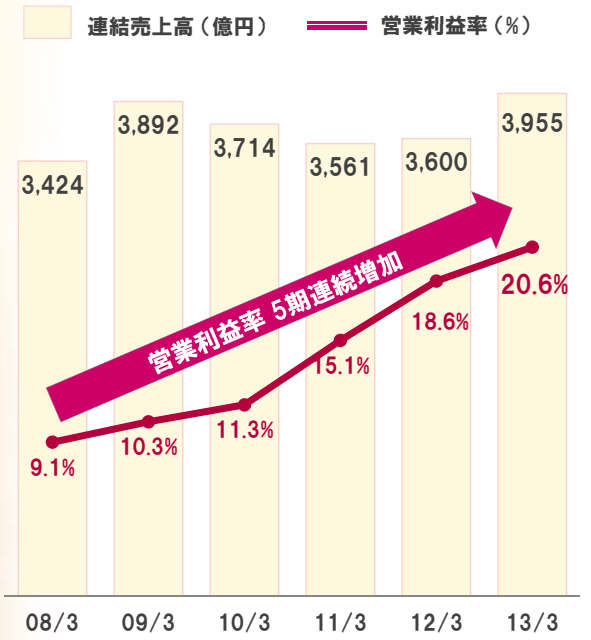
- 売上高の増
  - 入園者数の増(両パークのスペシャルイベントや新規アトラクションの好調、第4四半期の好天)
  - ゲスト1人当たり売上高の増(スペシャルイベントや「トイ・ストーリー・マニア!」関連商品の好調など)
- 人件費の増　約△5億円
  - 準社員労働時間など
- 固定経費・諸経費の増　約△5億円
  - 施設更新関連費など

※ただし、固定経費・諸経費は期初予想の範囲内

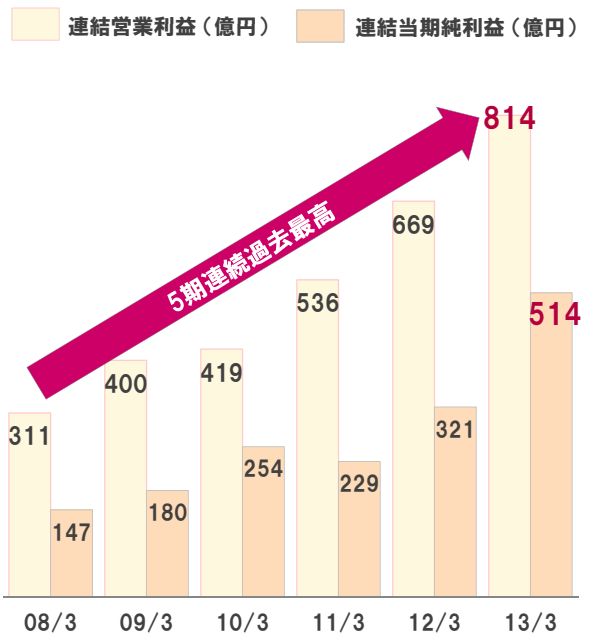
売上高の増加により増益

3. 業績推移

連結売上高・営業利益率の推移



連結営業利益・当期純利益の推移



利益率が増加し、営業利益は5期連続で過去最高

3. 業績推移

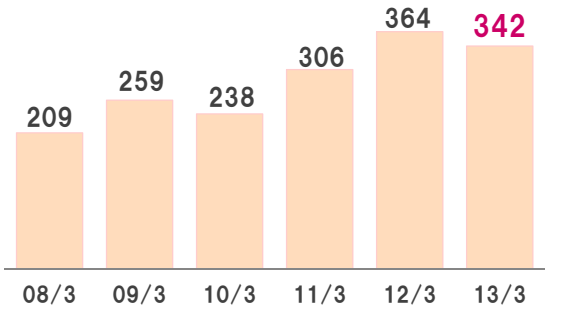
四半期別営業利益（連結）の推移

（億円）

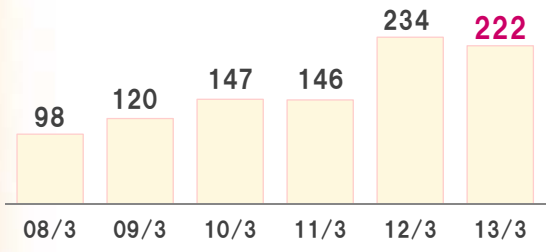
1Q営業利益



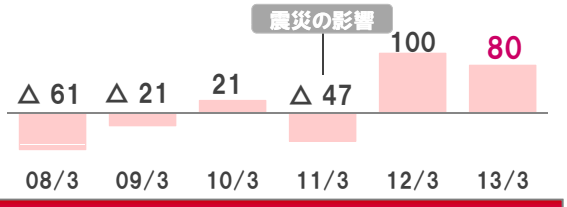
3Q営業利益



2Q営業利益



4Q営業利益



各四半期ともに利益水準が向上

3. 業績推移

各四半期の売上高の増加(テーマパーク事業)

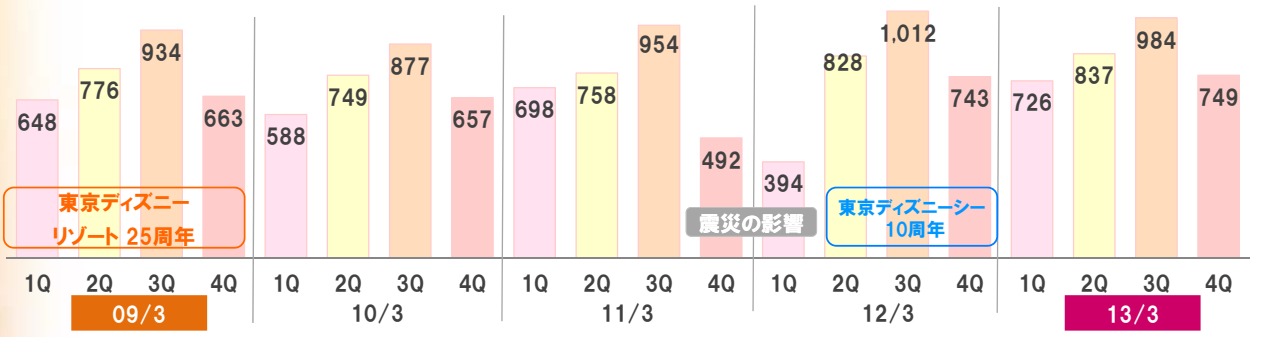
	2009/3	2013/3	増減率
1Q売上高	648億円	726億円	約12%増
2Q売上高	776億円	837億円	約 8%増
3Q売上高	934億円	984億円	約 5%増
4Q売上高	663億円	749億円	約13%増
通期売上高	3,024億円	3,298億円	約 9%増

1Q・4Qの成長要因

1Q:スペシャルイベントの奏功
- ディズニー・イースターワンダーランド
- ミッキーとダッフィーのスプリングヴォヤッジ

4Q:学生に向けたマーケティング強化
- キャンパスデーパスポートの広告宣伝
- タワー・オブ・テラー:Level13の導入

四半期別売上高の推移(テーマパーク事業)



特に第1四半期・第4四半期の売上高が増加

4. まとめ

2013年3月期実績 対 前期実績

- 両パークのスペシャルイベントや新規アトラクションが好調であったことなどから、テーマパーク入園者数およびゲスト1人当たり売上高が増加し、増収となった
- 通常営業に戻ったことなどに伴いコストが増加したものの、売上高の増加により増益となった

2013年3月期実績 対 10月発表予想

- 両パークのスペシャルイベントや新規アトラクションの好調に加え、第4四半期の天候に恵まれたことなどにより、テーマパーク入園者数が予想を上回ったことや、商品販売収入を中心にゲスト1人当たり売上高も予想を上回ったことなどから増収増益となった

Oriental Land Co.,Ltd.

II. 2014年3月期 業績予想

1. 2014年3月期予想(前期比較)

通期予想	2013/3 実績 (億円)	2014/3 予想 (億円)	増減 (億円)	増減率
売上高	3,955	4,137	182	4.6%
テーマパーク事業	3,298	3,366	68	2.1%
ホテル事業	489	607	118	24.1%
その他の事業	167	163	△ 4	△ 2.8%
営業利益	814	827	13	1.6%
テーマパーク事業	684	695	10	1.6%
ホテル事業	120	129	8	7.5%
その他の事業	6	2	△ 3	△ 63.7%
経常利益	808	823	14	1.8%
当期純利益	514	522	7	1.5%

売上高・各利益ともに過去最高

1. 2014年3月期予想(前期比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業①	2013/3 実績	2014/3 予想	増減	増減率
売上高	3,298億円	3,366億円	68億円	2.1%
入園者数	2,750万人	2,770万人	20万人	0.7%
ゲスト1人当たり売上高	10,601円	10,700円	99円	0.9%
チケット収入	4,483円	4,500円	17円	0.4%
商品販売収入	3,860円	3,960円	100円	2.6%
飲食販売収入	2,259円	2,240円	△ 19円	△ 0.8%

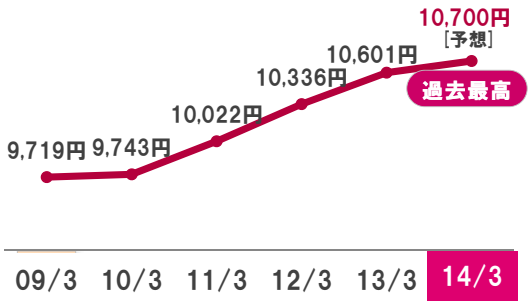
入園者数の増

- 東京ディズニーリゾート30周年イベントにより過去最高

ゲスト1人当たり売上高の増

- 商品販売収入の増加などにより過去最高
  - 東京ディズニーリゾート30周年関連商品による増

ゲスト1人当たり売上高の推移



入園者数・ゲスト1人当たり売上高ともに過去最高

1. 2014年3月期予想(前期比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業②	2013/3 実績	2014/3 予想	増減	増減率
売上高	3,298億円	3,366億円	68億円	2.1%
営業利益	684億円	695億円	10億円	1.6%

営業利益の増

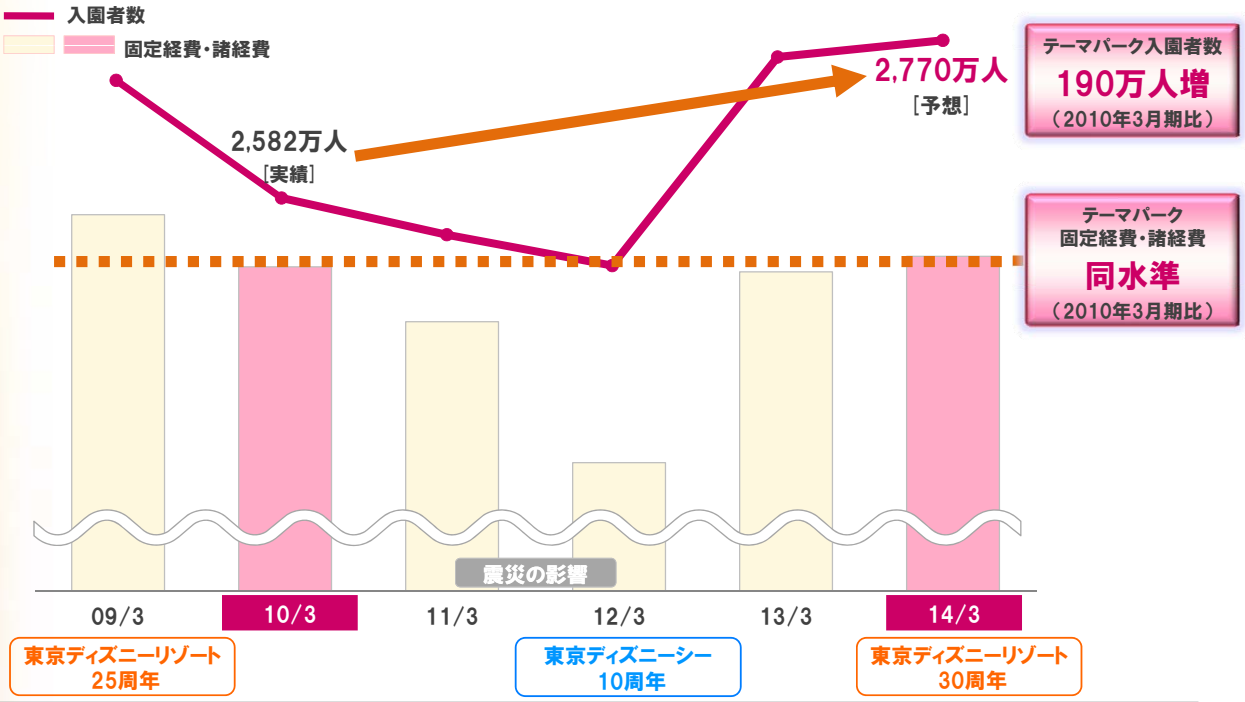
- 売上高の増
- 商品原価率・飲食原価率の増　約△20億円
- 固定経費・諸経費の増　約△5億円
  - 増加:東京ディズニーリゾート30周年関連コスト、固定資産税
  - 減少:施設更新関連費(前期、周年イベントの開始前に施設改修工事を実施)など
- 減価償却費の減　＋6億円

※人件費は前期レベルを見込む

コストが増加するものの、売上高の増加により増益

1. 2014年3月期予想(前期比較) - 主な増減要因

テーマパーク入園者数およびテーマパーク固定経費・諸経費の推移



テーマパーク入園者数
190万人増
(2010年3月期比)

テーマパーク
固定経費・諸経費
同水準
(2010年3月期比)

コスト効率化した計画

1. 2014年3月期予想(前期比較) - 主な増減要因

II. 業績予想

ホテル事業	2013/3 実績	2014/3 予想	増減	増減率
売上高	489億円	607億円	118億円	24.1%
営業利益	120億円	129億円	8億円	7.5%

- 東京ディズニーリゾート30周年イベントによる客室稼働率の増
- ブライトンホテルの取得による増

客室稼働率の増加などにより増益

その他の事業	2013/3 実績	2014/3 予想	増減	増減率
売上高	167億円	163億円	△ 4億円	△ 2.8%
営業利益	6億円	2億円	△ 3億円	△63.7%

- イクスピアリ事業の減
  - 店舗リニューアルやテナント入れ替え部分の休業期間の影響など

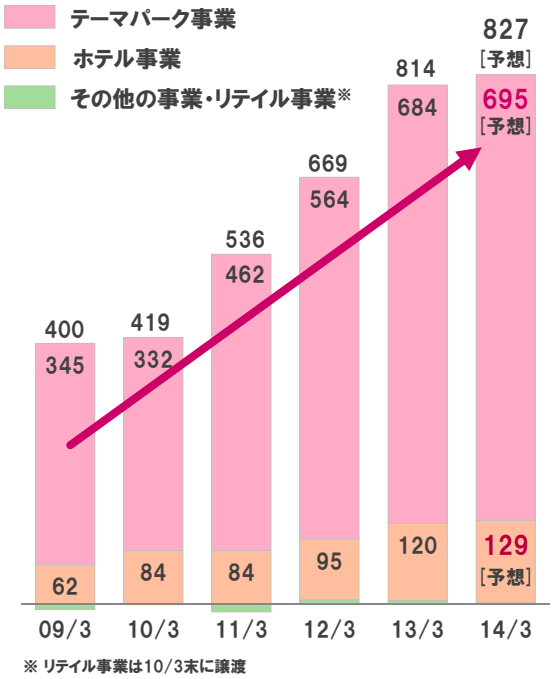
売上高の減などにより減益

2. 業績推移

連結売上高・営業利益率の推移



セグメント別営業利益の推移



※ リテイル事業は10/3末に譲渡

コア事業の利益が持続的に成長

3. まとめ

2014年3月期業績予想 対 前期実績

- 売上高は、東京ディズニーリゾート30周年イベントにより、テーマパーク入園者数が過去最高となることに加えて、ゲスト1人当たり売上高が商品販売収入の増加などにより過去最高となることなどから、増収となる見込み
- 商品原価率・飲食原価率の増加に加えて、東京ディズニーリゾート30周年関連コストが増加するものの、テーマパーク固定経費・諸経費は、過去の実績と比較して効率化した計画
- 営業利益率は前期に続き約20%となり、各利益は過去最高となる見込み

Oriental Land Co.,Ltd.

Ⅲ. 2013 中期経営計画の進捗状況

2013 中期経営計画の全体構成

2013 中期経営計画（2011年度～2013年度）

経営目標 ： 長期持続的な成長を可能とする企業価値の創出を目指す
目標値 ：フリー・キャッシュ・フロー＊ 3年間で1,300億円レベル創出

1	コア事業（東京ディズニーリゾート）の持続的な成長	（1）新しい価値の創造	成長性
		（2）マーケットの育成	
		（3）投資・コストの効率化	効率性

↓

高水準なフリー・キャッシュ・フロー＊の安定創出

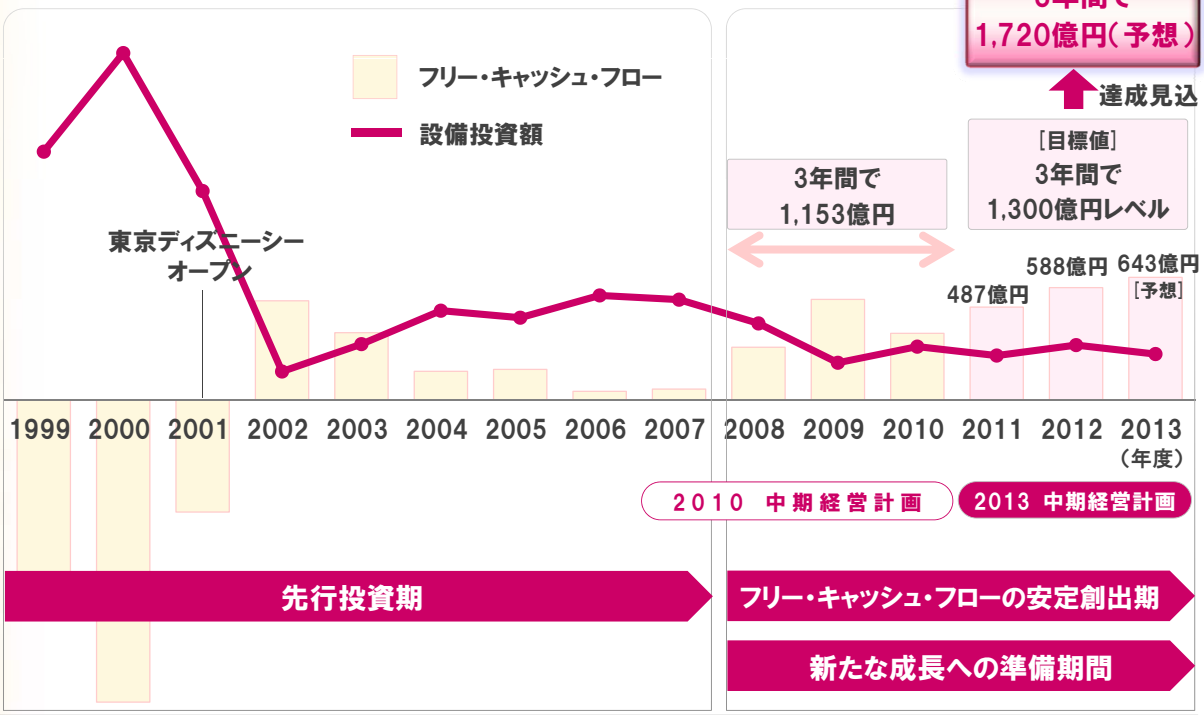
↓

2	長期持続的な成長への基盤強化	（1）新たな成長への準備	持続性
		（2）株主還元	

＊ フリー・キャッシュ・フロー＝当期純利益＋減価償却費－設備投資額

目標値

フリー・キャッシュ・フローの推移



目標達成の見込

1. コア事業の持続的な成長

(1) 新しい価値の創造 － 東京ディズニーリゾートのバリュー向上

- **シンデレラのフェアリーテイル・ホール**（投資額 約20億円）
  2011年4月15日オープン（シンデレラ城内を見学するウォークスルータイプのアトラクション）
- **ファンタズミック！**（投資額 約30億円）
  2011年4月28日スタート（「ブラヴィッシーモ！」に代わる新ナイトエンターテイメント）
- **ミッキー＆フレンズ・グリーティングトレイル**
  2011年4月28日オープン（キャラクターグリーティング施設）
- **ヴィレッジ・グリーティングプレイス**
  2011年7月8日オープン（キャラクターグリーティング施設（ダッフィー））
- **ジャスミンのフライングカーペット**（投資額 約20億円）
  2011年7月18日オープン（映画『アラジン』をテーマにしたライドアトラクション）
- **トイ・ストーリー・マニア！**（投資額 約115億円）
  2012年7月9日オープン（映画『トイ・ストーリー』をテーマにした3Dライドアトラクション）
- **グーフィーのペイント＆プレイハウス**
  2012年8月24日オープン（映像効果による疑似体験ができるアトラクション）
- **ハピネス・イズ・ヒア**
  2013年4月15日スタート（「ジュビレーション！」に代わる新しい昼のパレード）
- **スター・ツアーズ：ザ・アドベンチャーズ・コンティニュー**（投資額 約70億円）
  2013年5月7日オープン予定（3Dライドアトラクションにリニューアル）

東京ディズニーランド 新規プロダクト

東京ディズニーシー 新規プロダクト

東京ディズニーシー 10周年（2011年9月4日～2012年3月19日）

東京ディズニーリゾート30周年（2013年4月15日～2014年3月20日）

2011年度　2012年度　2013年度

＊ 2013年4月26日時点で公表している計画のみを記載

引き続き新規プロダクトの導入を図る

(2) マーケットの育成 – 両パーク来園の促進

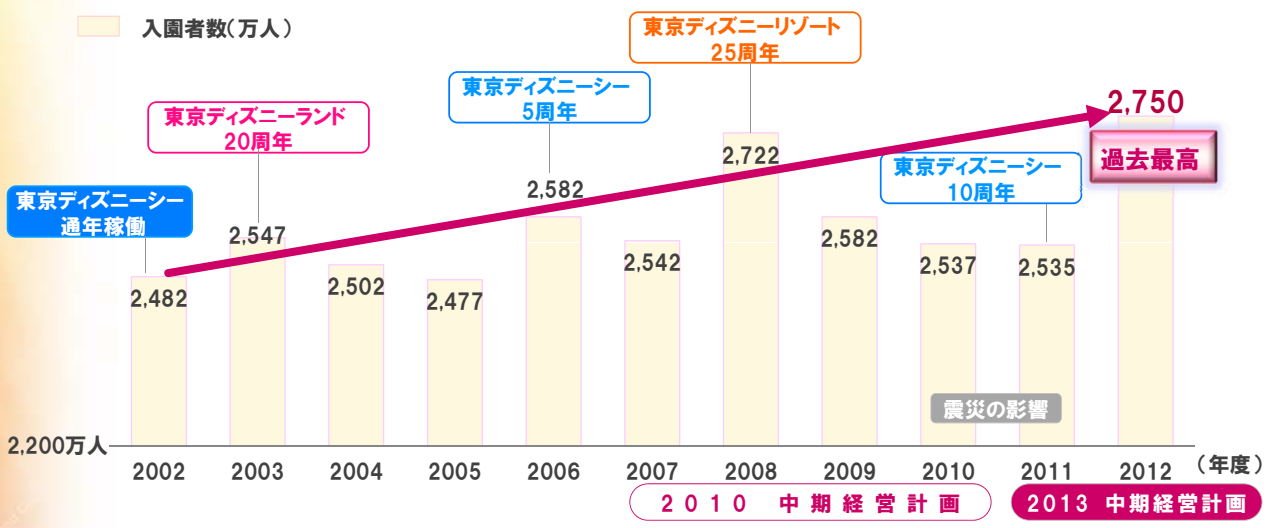
	施策	効果	2012年度の状況
東京ディズニーリゾートファン層の拡大	周年イベントの実施	ベースアップ	東京ディズニーリゾート30周年に向けた準備
	ファミリーエンターテイメント性の高い新規プロダクトの導入	子供連れファミリー層拡充	新規プロダクトの導入 – トイ・ストーリー・マニア！ – グーフィーのペイント＆プレイハウス
	バケーションパッケージの強化	ポストファミリー＊層拡充	取扱高の目標を1年前倒しで達成 目標： 2013年度に約160億円を目指す 実績： 2012年度に約170億円
	外部環境（インバウンド増加）に対応	海外ゲストの取り込み	海外ゲストは回復傾向
×			
リピート力の向上	歳時記イベントの実施	リピーターの獲得	歳時記イベントの実施 – ディズニー・イースターワンダーランド（東京ディズニーランド） – ディズニー・ハロウィーン（両パーク） – クリスマス・ファンタジー（東京ディズニーランド） – クリスマス・ウィッシュ（東京ディズニーシー）
	ゲスト満足度の向上		引き続き高いレベルを維持

＊ ポストファミリー＝子供が成長して手を離れた、主に40代以上のゲスト

東京ディズニーリゾートファン層拡大とリピート力向上を図る

テーマパーク入園者数の推移（2パーク通年稼働後）

	2002年度（実績）		2012年度（実績）
入園者数	2,482万人	約11%増 →	2,750万人



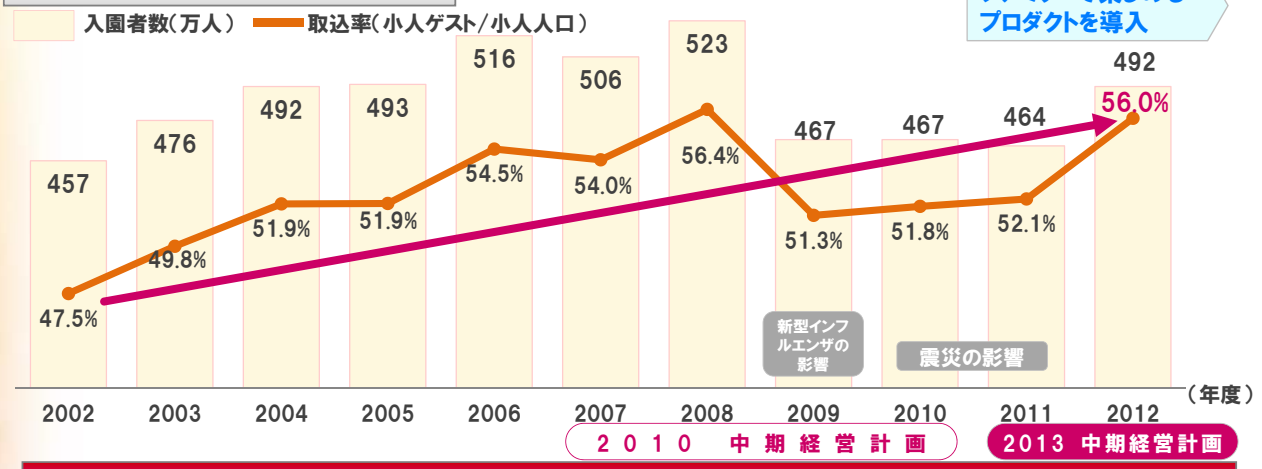
東京ディズニーシー通年稼働後、テーマパーク入園者数は約11%増加

1. コア事業の持続的な成長

① 東京ディズニーリゾートファン層の拡大　子供連れファミリー層の拡充

方向性	施策
東京ディズニーシーの進化 ディズニーテーマパーク共通価値の拡充	**ファミリーで楽しめるプロダクトを導入** ・ファンタズミック！（2011年4月） ・ジャスミンのフライングカーペット（2011年7月） ・トイ・ストーリー・マニア！（2012年7月） ・キャラクターグリーティング施設等

小人（4～11歳）ゲストの推移



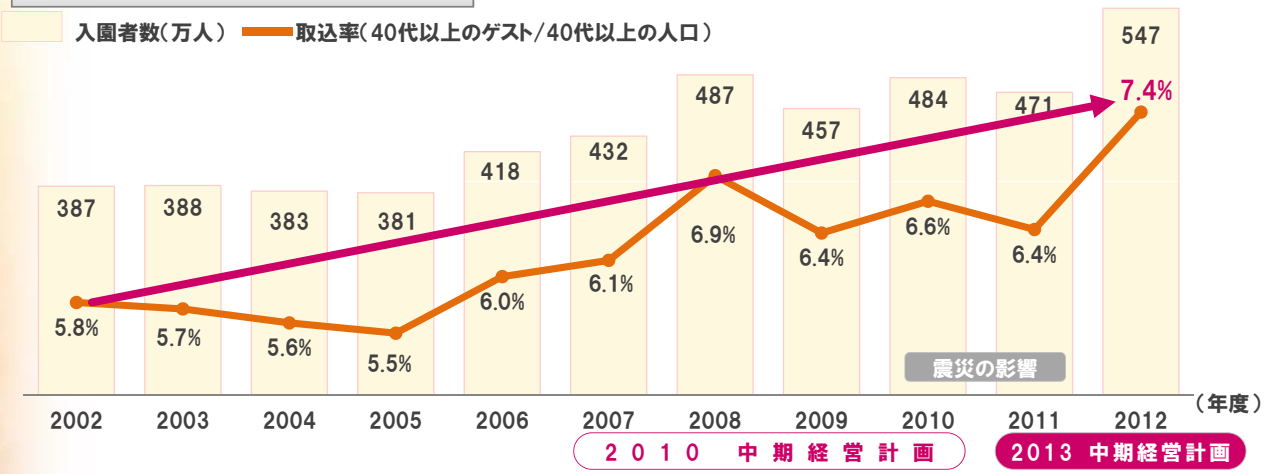
引き続き小人ゲストの取込率向上を目指す

1. コア事業の持続的な成長

② 東京ディズニーリゾートファン層の拡大　ポストファミリー層（主に40代以上のゲスト）の拡充

方向性	施策
これまで形成された顧客ロイヤルティの活用 子供が手を離れて来園機会を失っている	**新たな来園機会の提案** ・バケーションパッケージの販売 ・45PLUSパスポートの販売 ・友人・母娘・夫婦・3世代での来園をイメージした広告宣伝

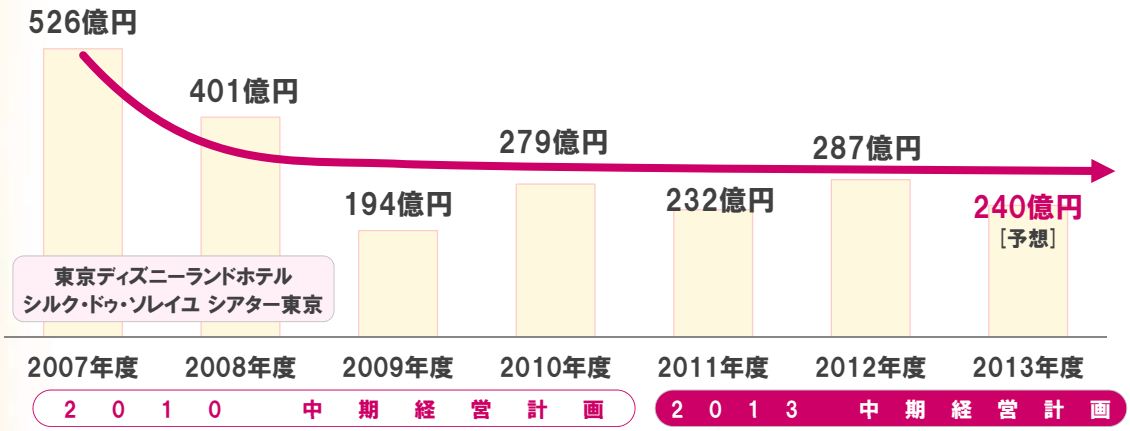
40代以上のゲストの推移



40代以上のゲストの取込率が着実に増加

(3) 投資・コストの効率化

設備投資額(連結)

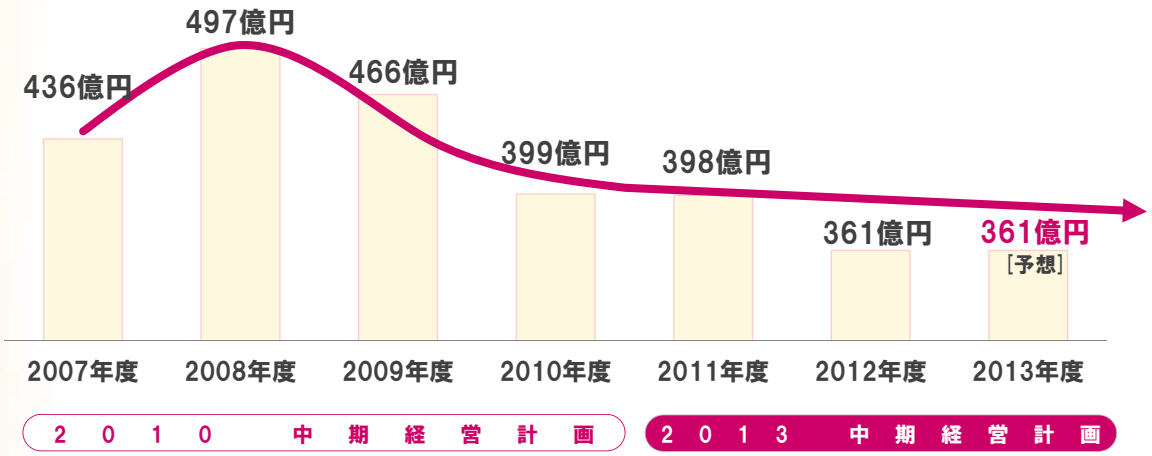


大規模な先行投資の一段落

設備投資額(連結)
年平均300億円レベル
でコントロール

計画内でコントロール

減価償却費(連結)



減価償却費は減少局面へ

投資効率の向上に伴い減少

減価償却費はゆるやかに減少

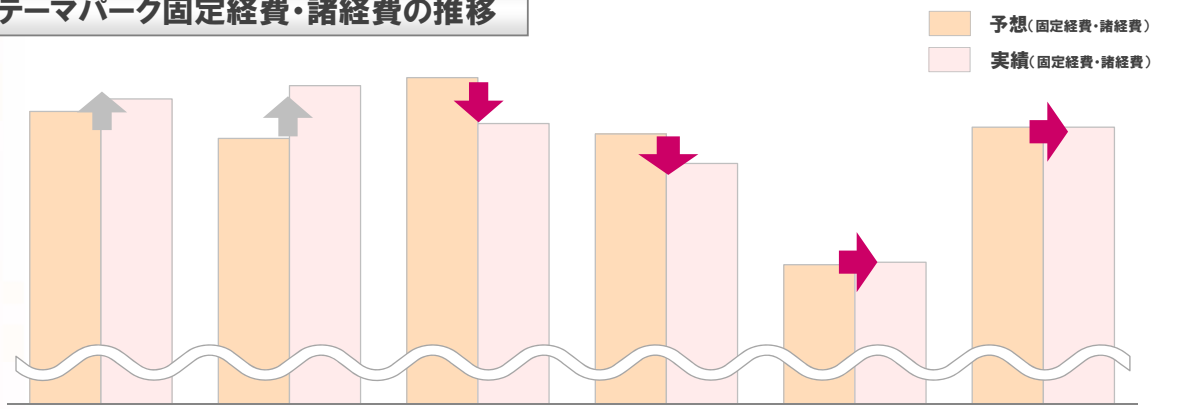
1. コア事業の持続的な成長

コスト

売上高に応じたコストのコントロール

販管費などゲスト体験価値に影響を及ぼさないコストの抑制

テーマパーク固定経費・諸経費の推移



	2007		2008		2009		2010		2011		2012	
	期初予想	実績	期初予想	実績	期初予想	実績	期初予想	実績	11月予想	実績	期初予想	実績
テーマパーク入園者数（万人）	2,540	2,542	2,580	2,722	2,560	2,582	2,580	2,537	2,450	2,535	2,630	2,750

（年度）

期中のコストコントロールを強化

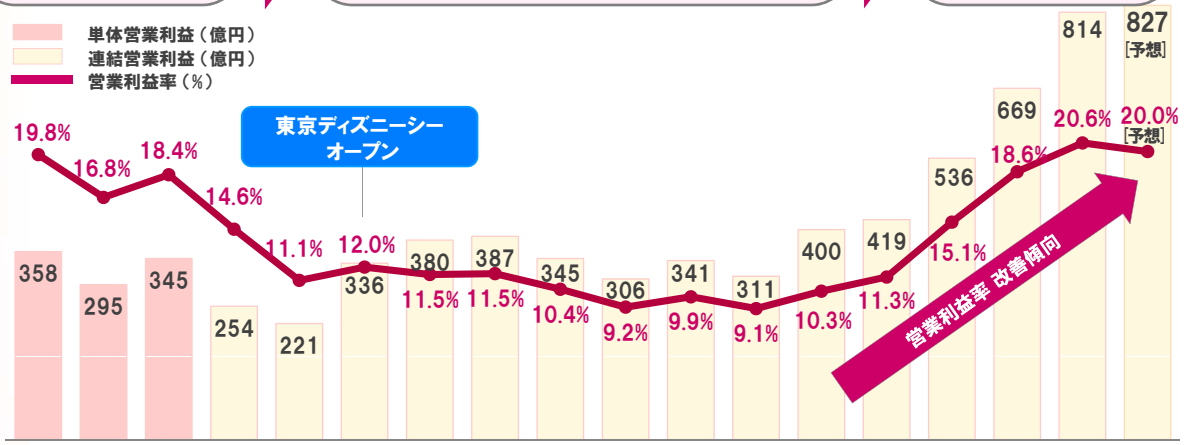
1. コア事業の持続的な成長

営業利益・営業利益率の推移

1パーク時代 営業利益率 約20%

減価償却費の負担大/コスト面の増加 営業利益率 約10%

利益率改善 営業利益率 約20%



（年度）	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
EBITDA（億円）	477	407	461	379	405	716	859	847	791	739	770	747	898	886	936	1,067	1,175	1,188 [予想]
減価償却費（億円）	119	112	116	124	184	379	479	459	445	433	429	436	497	466	399	398	361	361 [予想]
設備投資額（億円）	384	441	598	1,304	1,822	1,097	148	292	468	431	548	526	401	194	279	232	287	240 [予想]

※ 1998年度以前は単体決算の実績

引き続き営業利益率20%レベルを目指す

(1) 新たな成長への準備

フリー・キャッシュ・フローの使途

1. 新たな成長への投資
2. 株主還元
3. 有利子負債の削減（新たな成長へ向けた投資余力の確保）

現時点での返済計画*

＊ 新規調達、および、リファイナンスは含まない

返済計画	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
社債	—	—	300億円	—
長期借入金など	193億円	17億円	5億円	6億円

（参考）	2012年度末
有利子負債残高	1,240億円
D/Eレシオ	0.29倍

長期視点でフリー・キャッシュ・フローを配分

新たな成長の方向性

1. 強みを活かせる分野
2. 一定以上のリターンが見込める投資

新たな成長に関する検討分野

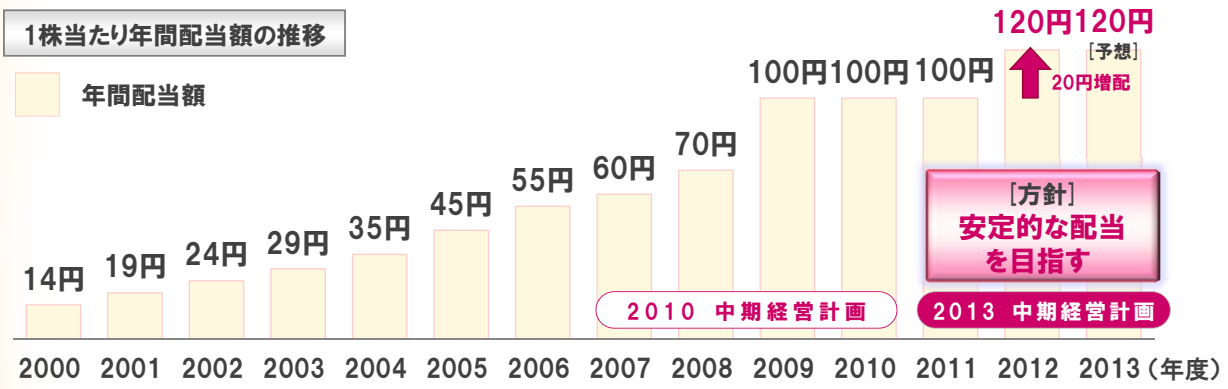
地域	進捗状況
舞浜エリア	舞浜エリアの全体開発方針を検討中 未利用地の活用や既存施設のバリューアップにより、リゾート全体での成長を目指す
舞浜外エリア	方針・各種案件を検討中

2014年4月までに新たな成長への方針を策定

2. 長期持続的な成長への基盤強化

(2) 株主還元 - 配当

1株当たり年間配当額の推移



(3) ROEの向上

今年度は、11.5%となる見込み

ROEの推移



株主還元を着実に実施

Oriental Land Co.,Ltd.

株式会社オリエンタルランド　経理部IRグループ

www.olc.co.jp

注意事項：

本資料は、ＯＬＣグループの業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではございません。

本資料にて開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。当社グループの事業は、顧客嗜好・社会情勢・経済情勢等の影響を受けやすい特性を持っているため、本資料で述べられている予測や見通しには、不確実性が含まれていることをご承知おきください。

テーマパーク入園者数については単位未満を四捨五入、財務データについては単位未満を切り捨てて記載しています。

本資料の転載はご遠慮ください。